

平成25年度 世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策 実施状況

(1)

活動の内容と確認事務

① 組織の設立(2月～3月)

↓
規約を作成し、設立総会の議決を経て組織を設立

② 計画の策定(2月～3月)

↓
地域で取り組むそれぞれの活動の計画を策定

③ 申請書類の提出

↓
市町等と協定を結び、組織から市町を経由して地域協議会へ申請を行う。
なお、向上活動の新規地区については、5月上旬までに取組要望書を市町経由で地域協議会に提出

④ 活動の実施

↓
交付金を受け、計画に基づき、活動を実施します。

⑤ 活動の記録・報告(年度末)

↓
日々の活動の作業内容や金銭の収支等を記録します。当該年度の記録をとりまとめて報告書を作成し、市町に提出



主な確認事務

← 年間活動計画の指導

← 申請書類の審査など

← 中間指導(10月から2月)

← 実施状況の確認

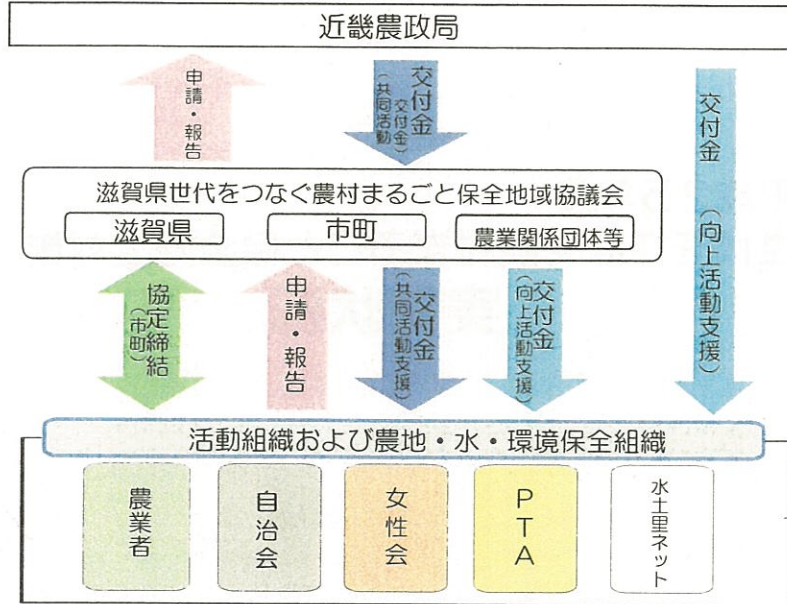
← 抽出検査

滋賀県世代をつなぐ農村まるごと
地域協議会



(2)

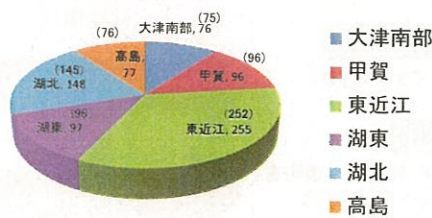
交付金流れ



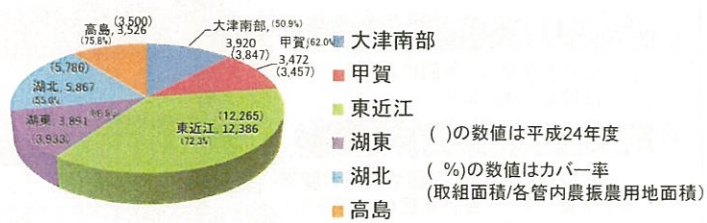
(3)

本対策の取組状況

取組組織数(全県 742)
749組織

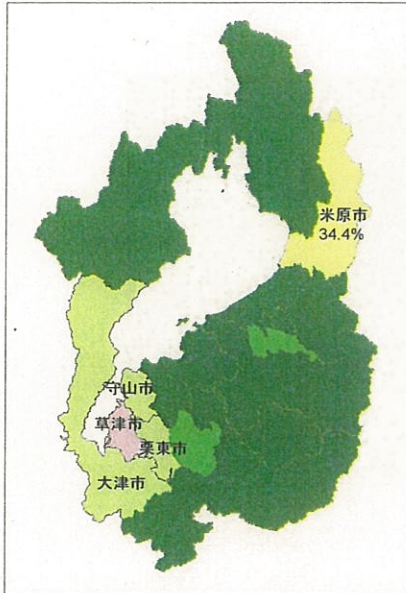


取組面積(全県 32,787)
33,062ha



(4)

市町毎のカバー率(共同活動取組面積/各市町農振農用地面積)



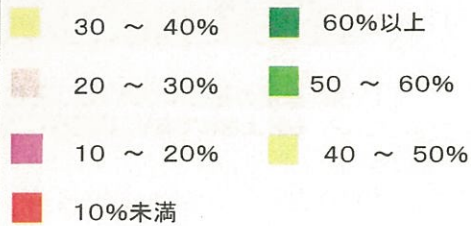
・滋賀県全体のカバー率 : 64.3%

・取組の高い地位

甲良町:83.9% 竜王町:82.0%
豊郷町:76.7% 高島市:75.8%

・大津市から湖南地域(草津市、守山市、栗東市)にかけての地域は50%を下回っている。

草津市:26.7% 栗東市:41.4%
大津市:43.8% 守山市:47.9%



(5)

共同活動の取組内容

()の数値は平成24年度

活動項目		実施を確認した組織数	備考
基礎活動	点検及び機能診断	農用地	(742) 749 全組織
		施設	(742) 749 全組織
	年度活動計画の策定		(742) 749 全組織
	機能診断・補修技術等の研修		(283) 324 対策期間中に1回以上実施
	農用地	必須 ①遊休農地発生防止のための保全管理	(742) 749 全組織
		必須 ②畦畔・農用地法面・防風林等の草刈り	(742) 749 全組織
		③畦畔・農用地法面等の補修	(562) 604 点検・診断により必要に応じて
		④施設の適正管理	(486) 597 "
		⑤異常気象時の対応	(486) 653 "
	水路	必須 ①水路の草刈り	(742) 749 全組織
		②水路の泥上げ	(738) 745 点検・診断により必要に応じて
		③水路の適正管理	(643) 690 "
		④付帯施設の適正管理	(470) 537 "
		⑤異常気象時の対応	(323) 654 "
	農道	必須 ①路肩、法面の草刈り	(742) 749 全組織
②側溝の泥上げ		(448) 479 点検・診断により必要に応じて	
③農道の適正管理		(612) 667 "	
④付帯施設の適正管理		(284) 362 "	
⑤異常気象時の対応		(306) 653 "	
ため池	必須 ①ため池の草刈り	(196) 196 ため池を管理している全組織	
	②ため池の泥上げ	(72) 89 点検・診断により必要に応じて	
	③堤体の適正管理	(108) 126 "	
	④付帯施設の適正管理	(113) 131 "	
	⑤異常気象時の対応	(83) 155 "	
農村環境保全活動	計画策定		(742) 749 全組織
	啓発・普及		(742) 749 "
	実践	農業用水の保全	(742) 749 全組織
		農地の保全	(153) 173 実施を選択した組織
		地域環境の保全	(742) 749 全組織

(6)

共同活動及び向上活動による保全・整備量

① 共同活動による保全・整備量

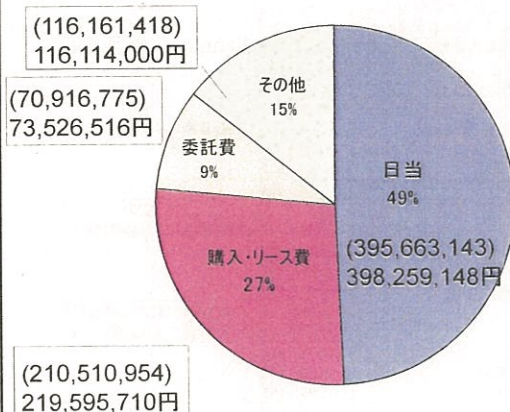
施設名	共同活動対象	全体
水路	7,504 km	約12,000 km
ため池	562 箇所	1,554 箇所
農道	3,819 km	約3,637 km (農道台帳管理延長)

※ 農道の延長については、従来から管理されている集落道等も計上されており、農道台帳を超える延長となっています。

(7)

共同活動交付金の支出内訳 (平成25年度の実績)

(793,252,290)
共同活動交付金: 807,495,374 円



購入 リース	<ul style="list-style-type: none"> ・資材(砕石、セメント等) ・機械(草刈機等) ・パソコン等 ・車両 ・機械等借り上げ
委託費	<ul style="list-style-type: none"> ・建設業者等への外注 ・事務の外注 ・技術指導等への謝金
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・先進地視察・研修 ・保険料 ・文具、光熱費

()の数値は平成24年度

(8)

② 向上活動による保全・整備量

()の数値は平成24年度

取組内容	取組組織数	事業量	事業費 (千円)
1) 施設の長寿命化			
・水路補修	(53) 64	(4,797) 5,986m	(169,568)
・水路更新	(36) 37	(3,673) 3,753m	197,948
計	* (86) 101	(8,470) 9,739m	
2) 高度な農地・水の保全活動			
① 農業用水の保全			
・循環かんがい	(2) 3	(4,797) 11,615a	
② 農地の保全			(6,832)
・グリーンベルト等の設置	(4) 10	(740) 3,225m	14,719
③ 地域環境の保全			
・水田魚道の設置	(6) 9	(34) 28箇所	
・生息環境向上施設の設置	(2) 8	(2) 20箇所	
・生物移動経路の確保	(1) 2	(25) 110m	
計	* (12) 32		
合計	* (97) 122		(176,400) 212,667

※複数の取組を実施している組織があるので計および合計が一致しない。

(9)

1) 施設の長寿命化

・水路補修



・水路更新



(10)

2) 高度な農地・水の保全活動

① 農業用水の保全

- ・循環かんがい
ポンプの更新



② 農地の保全

- ・グリーンベルト等の設置



(11)

2) 高度な農地・水の保全活動

③ 地域環境の保全

- ・水田魚道の設置



- ・生息環境向上施設の設置
(木橋歩道の補修)



- ・生物移動経路の確保
(水路フタの設置)



(12)

事業の普及啓発

田んぼだいすきふるさと
農村こども絵画コンクール
対象: 県内小学5年生
応募作品: 982

にぎわう農村フォトコンテスト

対象: 一般
応募作品: 118

知事賞 「おじいちゃんと畑」

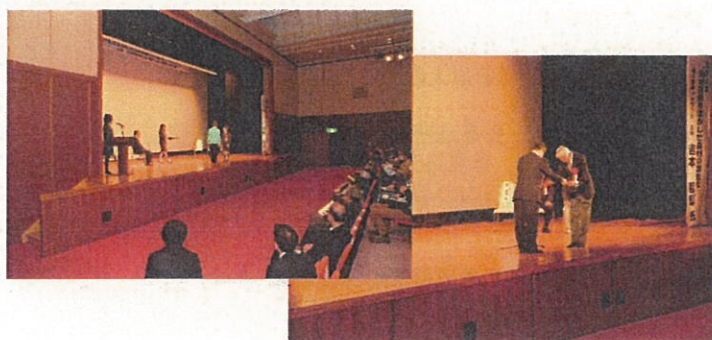


グランプリ 「魚道づくり」



(13)

人・生きものにぎわう農村フォーラム2014 (1/2)
H26. 2. 1開催



表彰式

- ・田んぼだいすきふるさと農村こども絵画コンクール(左)
- ・にぎわう農村フォトコンテスト(右)

(14)

人・生きものにぎわう農村フォーラム2014 (2/2)



基調講演
吉本哲郎氏(地元学ネットワーク主宰)

パネルディスカッション



(15)

活動組織向けの研修会実績

- H25. 7. 30(火)
8. 7(水) 機能診断、施設補修、資料作成(座学)
(参加人数:154人)
- H25. 8. 23(金) 先進地研修
奈良県天理市、桜井市
「山の辺の道地域づくり」
(参加人数:111人)
- H25. 11月~12月 農道舗装の簡易補修(座学と実践)
県内8か所を実施
(参加人数:176人)

(16)

平成25年度の成果と課題

1. 成果

◆活動組織、面積の増

H24 742組織 32,787ha

↓

H25 749組織 33,062ha (8組織増・1組織の取り止め 275ha増)

◆県内の農振農用地の2/3において、農地や農業用施設の適切な維持保全が図られた

2. 課題

- ◆更なる取組面積の拡大など、多面的機能の持続的な発揮のための体制の充実
担い手に農地を集積して規模拡大を図る構造改革が進められる中、農地・農業用施設等の地域資源の適切な保全管理の重要性が増しており、取組面積の拡大や活動組織の体制強化が必要

3. 対応方針

◆国の制度改正を契機とした普及啓発の推進

本年4月以降、市町と共同して集落へ制度内容を周知

その結果、県全体のカバー率は、70%程度に向上する見込み

◆各活動組織の「地域資源保全管理構想※」策定に対する支援の充実

構想策定に向けた活動組織での議論が深まるよう、市町と共同して先進事例等の情報提供や助言等を行っていく

※地域で守ってきた農用地や水路、農道等の地域資源を将来にわたってどのように引き継いで行けば良いのかを地域で話し合い、構想としてとりまとめるもの

(17)

